

洛星新闻

印刷(株)吉川印刷工業所

局員募集
投稿歡迎

文化祭は十月の二十四、五、六の三日間にわたり「EVER ONWARD（限りなき前進）」をテーマに行なわれた。今年度からは高三を除く全学年が演劇コンクールに参加したことや、視聴覚教室でのVTR上映など新しい企画が盛り込まれたが、展示のコンクールの中止などがあったためか今一つ物足りなく思っているうちに終わってしまったようだ。

のワルツへみごとな格わたりをし、さいごの「セヴィリアの理髪師」序曲でみごとにしめた。(某新聞にオーケストラ部が紹介された時、小笠原先生は少々手きびしい談話をのせておられたが)。

さて、その間、旧講堂ではコンサートと落研のソツのない落研視聴覺ではVTRと高一有志の映画が上映され、各クラスの展示もおこなわれた。

展示であるが「これが洛星の展示なんだ」と言えるような展示はほとんどなかった。クラブによる展示と、ごく二、三の展示を除くと既に他校でもやっていたり、単なる文字の羅列に終わっていたり、プログラムに記載されている文を読んでも興味をそそられて行つてみてもそのような展示の多かったのには幻滅を感じた。中2 A、Bは同じ事をほとんど同じようにあつかっていた。が、彼らの展示に対する態度はすさまじく(別号も後述)。

眼をもつてそのテーマに取りくんでいたが、今一つ突っ込みが足りないように感じた。高1学年のロクソクジュネレーションは、教室の半分を生演奏もできるように作つてゐるのは面白かった。高1 Bの「THE YOUNG SQUARE」は、中でフィリソクカ

毎年文化祭は大勢の人々が鼻に来られる。どういふ人達が来られるか、とか、どのような展示やなんかに興味を示されるか、どうかといふことも気になると思う。そこで今年の文化祭で新聞局がアンケートを取つたので、それを会場で公開しようと思う次第である。

一から五までは文化祭についてのことなのであえて説明はしないが、六について少し説明させていただきます。

高ⅠDの「刑罰史」は、なかなか手のこんだ作り物で入場者を、「ギョッ」とさせたが、時代の考証もよくできていた。

さて、今年度文化祭の総括であるが、展示、発表を見ていてもいいたいところに「EVER ONWARD」があるのかいみじくも「ト」について

たことであつて、外部の人々はこの様な感じを洛星生に対して持つ

合唱音楽

遠藤政樹

合唱のたのしみは聞くことより歌うことにあると思ふ。今年の文化祭の合唱コンクールも色々な難しさをかかえながらも成功だったのではないだろうか。最初に文化祭合唱責任者、審査員の意見うなものであつたが話し合つては

書いたと「そんなテーマがあるとは知らなかった」「限りのき前准とは違ういうことなのか」などであつた。これはもう生徒会の説明不足であつたように感じる。

四では中学生の西園緑りの展示やオリエンテーリングが人気あつた。それからHⅠBの展示、特にフィーリングカッブルと占いが賛否両論あつたが印象に残つたという点で多かった。

五では売り切れのことについて

らしなく、着て町をウラついている生徒がいる」などという批判もあった。
 これで終るが来年の文化祭への躍進を期待する。
 アンケート質問内容と集計
 一、当校生との関係（重複可）
 A、父兄……二三名
 B、兄弟その他親族……九〇名
 C、卒業生……九名
 D、友人……一二二名
 E、その他……一二二名
 う。音楽が日本の歴史の流れに入つて百年の間にはらしい発展をとげた。今日の日本中の合唱人口はすごい数ではないだろうか。合で、小演奏会を開き、その土地の唄だけでなく各音楽分野でも同じ事が言える。音楽とは、言葉通り音楽を楽しむ事である。合唱音楽の場合、何十人という団体で、一人一人の違った人。性格の違う人が同じ曲に接する。どんな曲にす

高……一八名 成安高……二名、華頂高……五名、京府高……六名、ブル高……二名、聖心・奈安付・東山各一名、公立高……二名
 公務員二五名、会社員四七名、自由業二六名、その他一〇三名
 三、テーマについて
 A、生かされていたか
 B、去年に比べてどうか
 （解答略以下同じ）
 四、印象に残った展示、発表会は五、模擬店への注文
 六、洛星生への意見

以上

いふとへへ。」をつげざるを得ない。確かに「今回の文化祭は重星の歴史の「園」なき前進」の一步である」といわれればなほほほとそうか、と思つてしまふが、それならば何も文化祭に限る必要はなく入学式や、体育祭、卒業式がすべてに「EVER ONWARD」とつけられ良いのである。◆文化祭にテーマは必要か。という問いに對して「そのテーマが展示、発表等ほどなすべてに徹底できないようなテーマならむしろ必要でない」と答へる張さんたり。ただし徹底できている、といつては、生徒会が決めたテーマの下にすべての展示、発表が規制せよ、と言っているのではない。そうするとむしろ文化祭は手、味気ない文字の羅列にすぎたものとなつてしまふ。だろ◆文化祭のテーマというのはその文化祭の展示、発表を見ながらそのためのもの。一貫性と

「あの世、この世」でスタートした。これは今年度の舞台効果賞を「あがるまで」が上賞された。この間、視聴覚教室では、洛星文化祭初登場のVTRによる映画「ベン・ハー」が上映され、階級教室では「文化祭で何だろう?」というテーマで討論会が行なわれ、旧講堂でのコンサートもスタートした。

新講堂で有志による「室内楽」が行なわれた。モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」は良く知られている曲だけに演奏者のミスが少々目立った程度で他の曲は、すばらしい演奏であった。このあと、今年度演劇コではものすごい迫力をもって、次々

がよく知っているものばかりを演奏したため、なかなかの好評だった。

演劇部公演は、その劇中に、部員が作曲した曲を使い効果をあけていた。少し聞き覚えがあったが、観劇して見た父兄の中には内容の深さに涙を流される方もおられた。

演劇部公演の中ころから、新講堂に人が増え始めた。そしてオーケストラ部の公演が始まるころには新講堂はほぼ満員となった。そのオーケストラ部公演だが、「白鳥の湖」や「胡桃鉗人形」では少し小さなミスが目立ったものの、その次の「ローエングリン前奏曲」



以上のような病死的意見が、ますます。各クラス自分達の力で、それぞれ個性的な発表をしてくれて、楽しかった。クラス全体で合唱に接する時間があつたらもうすばらしいのができたのではないかと少し残念思う。合唱としてクラスとしてのチームワークが、うまくいっているクラスとそうでないクラスが感じられる。自分達の力で二つの曲を表現しようという意味で、意欲の深さの問題。この曲で何を歌うのかを皆がはつきりつかんではいい。自分達でしっかりとめる曲を選ぶべきではないか。フォークソングなどは、発表の場のふんいきでたいな効果がでてくる、伴奏が歌声を押しつづける。

以上のような病死的意見が、ますます。各クラス自分達の力で、それぞれ個性的な発表をしてくれて、楽しかった。クラス全体で合唱に接する時間があつたらもうすばらしいのができたのではないかと少し残念思う。合唱としてクラスとしてのチームワークが、うまくいっているクラスとそうでないクラスが感じられる。自分達の力で二つの曲を表現しようという意味で、意欲の深さの問題。この曲で何を歌うのかを皆がはつきりつかんではいい。自分達でしっかりとめる曲を選ぶべきではないか。フォークソングなどは、発表の場のふんいきでたいな効果がでてくる、伴奏が歌声を押しつづける。

の人間関係、音楽に対しての技術、歌いながら幼児の体に手が着くたのレベル、これらの問題点を考え、これらは日本人の生活をしないかぎり、と合唱を心から楽しむには、ほんとに難かしいと思うかもしれない。しかし音楽をするのに「難かしい」から出発したら、心からはなれた音「死んだ音楽」になつてしまふような気がする。だから音への接し方で音楽になるか、ならないか決まつてゐるから非常に恐ろしい事だと私は思う。

ヨーロッパの人々はその点、楽しい時、悲しい時など自然とメロディにハーモニイが加わるのである。自然という所が非常にうらやましく感じる。合唱だけが音の文化の発展への大きな砂割りの樂でないから日本の音楽はためた一歩だと思ふ。

いうのが見られる共通した精神
 というものが即ちこれテーマであ
 る。◆また規範を越えた文化祭が
 どれほど味のないかいまさらここ
 に書くまでもなからう。同じよう
 な内容、同じようなシンケート、
 マンネリ化したとをまた繰り返す
 すそのような文化祭なら存在する
 価値はなく、見ている方もつかれ
 るだけとなってしまいます。このよう
 な文化祭を満ち足りるのは規範する
 側だけである◆テーマ問題につい
 てはさまざまな意見があるであ
 ろうが、規範された文化祭に対し
 ては自分の考えを素直に述べるた
 めにもたえ「何々らよを導
 る」という名を隠れていてものを
 言は決して許してはならない。

「ブルカ」といふのをやっていたが、これは下Vの物まね丸出しで、笑ひむけには十分だが、展示としてはいたゞけない。

そんな中で「乱ラジオ」「大事件の謎」は時事的な「BCU」や「三億四事件」を級に興味を持って見る事ができ、また「東海林さだおの世界」「マンガ75」は前者はいわゆる「サラリーマンガ」を学生の目にとらえたすばらしいもので後者は「漫間」だけでなく生徒の作品に満ちる幻想的な絵や、少女のヌードのデッサン等、秀作ぞろい、洛星のある一面をおかせていた。

また「天体写真75」は天文部員によらない天体の記録という面

マに對する心が少なすぎたためにこのような「悲劇」が生まれたように思える。生徒会もよくやっていたが、今一つ二つこみ」が足りなかったようで、その点がいしまれてならない。

文句が出ていたくらいで「少し不潔だが、又そこが良い」という意見があつたくらいである。

さて、問題の六である。圧倒的に多かったのはやはり、真面目で感じがよく、意外とカチカチの人は少ないという好意的な意見であつた。しかし髪の手を長すぎるとかパーマはきかないというのが多かった。又「パスの優先席に座り、老人が横に立つても堂々勉強

二年会・職業

十一才：二名、十才：二十名、十三才：四六名、十四才：六十七名、十五才：六四名、十六才：三四名、十七才：一八名、十八才：九名、十九才：九名、二十代：九名、三十代：四六名、四十代：一四七名、五十代：一六名、六十代：六名、七十代：二名

小学生：二三名、中：一三〇名、中二：六五名、中三：七一名、高一：三九名、高二：二七名、高三：一〇名、大学生：十名、大学院生：一名

同女中：四三名、同（共）中：三九名、京女中：一十七名、ノートルダム女中：五名、平安中：二二名、陣院中・平安中・家政中各二名、公立中：四五名、同女高：二二名、同（共）高：一七名、京女中

◆文化祭は上にも述べ
てあるように二月の二
十四、二十五、二十六
日の三日にわたって前
年と同じ「EVER
ONWARD」をテーマに行なわ
れ、これといった大きな事故もお
こらずに終わった。◆テーマといっ
のはそのものの題名であり、象徴である
例えはラジオからある音楽が流れ
てきたとする。よみラジオを聞く
人なその曲が何となく番組のテ
ーマでその番組の司会はたれて内
容はほとんどなので……といひてなが
すにわかる。またテーマのなが
い討論会、座談会はなく、テーマに
よってそれぞれの会が進められるの
である。果たして今回の文化祭に

